

広報 ふじかわ

9月号

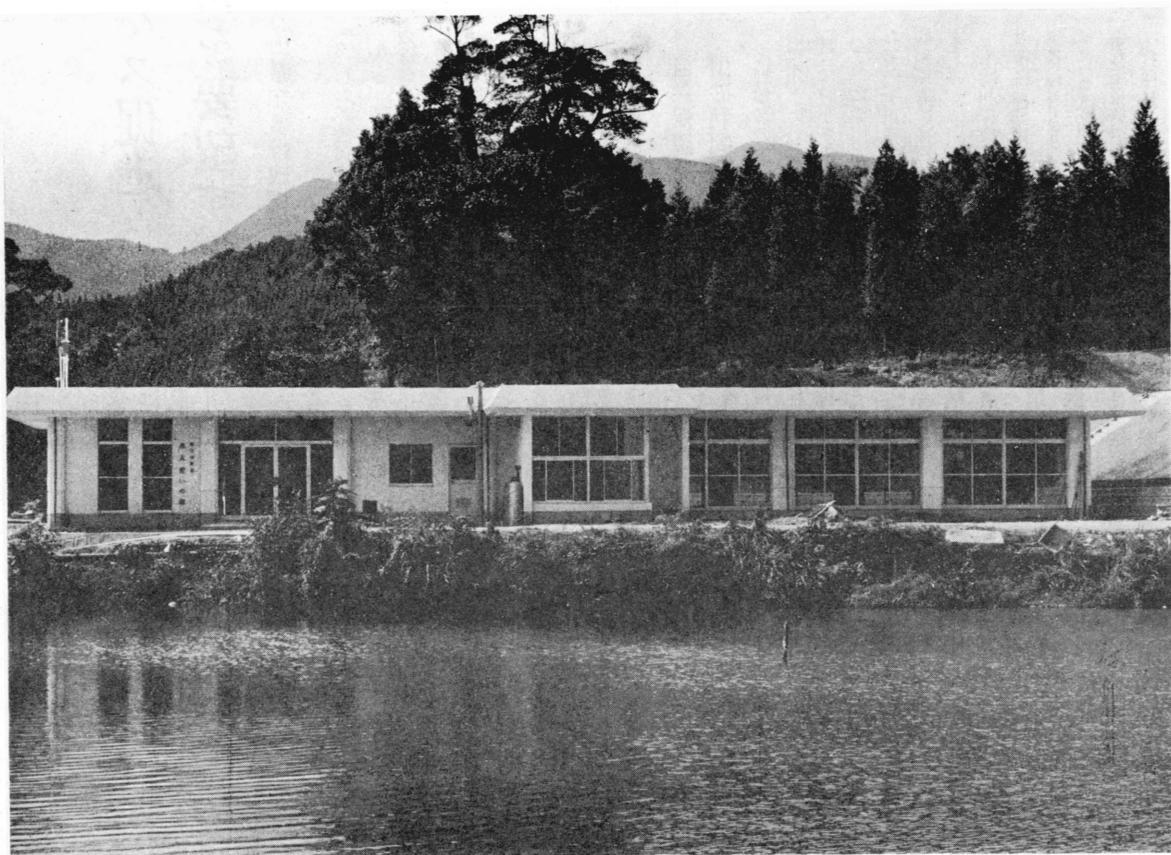
昭和48年9月10日発行

No. 155

町のメモ

人口	48. 8. 1. 15,827人
増減	先月より +34人
男	7,838人
女	7,989人
世帯数	3,722世帯
面積	31.09km ²

富士川町 企画課



八幡神社境内に

老人いこいの家完成

周囲は緑あふれる林に囲まれ、富士山の眺望も抜群。前庭にはコイの泳いでいるため池があり、静かな環境に包まれている南松野八幡神社境内の中復に、老人いこいの家が七月十六日完成しました。

老人の教養向上、レクリエーションの場として、心身の健康増進を図る目的で建設された老人いこいの家は、鉄筋コンクリート平家建て、延べ面積二百六十二平方メートルで、内部には一日ゆっくり保養できる娯楽室、休養室、浴室や健康相談室。また、各種の会合ができる集会場などが完備されています。

この落成式が八月九日、町関係者、町長、議員、八幡神社氏子、地元住民ら百五十人の出席のもと、行なわれました。

また同時に、老人いこいの家建設に伴ない、八幡神社社殿を移転したため遷座奉告式も行ないました。

老人いこいの家は、八月二十八日から開館しました。老人クラブなど、老人の利用のほか、一般にも開放されています。

富沢線バイパス促進

二十項目を要望する

——竹山県知事行政視察——

竹山県知事は、毎年県民の実態を把握し、これを県政に反映する目的で、県内の各市町村を行政視察しています。

今年、八月十五日に来町、町関係者、議員、各種団体長ら五十人の代表者が出席のもと、役場議場で会議が開かれ、中川町長をはじめ、商工会長、農協組合長から町政の現状報告と二十項目の要望書の説明がなされました。

要望書のうち、主なものは次のとおりです。



県道富士川富沢線の交通安全対策は、一昨年末河川敷ウ回路の開設により、木島―岩淵地区の沿道住民のダンブ公害は暫定的に解消しましたが、松野地区については一日一万一千台の通行車両による騒音、振動、排気ガス公害のほか交通事故件数も増加しています。恒久対策として、一昨年に本路線のバイパス第一期事業が認められ、国道一号線から千九百五十号（坂下、舟山町地区）の改良に着手

すでに、一企業の採取が認可となり専用道路によって搬出されようとしています。また、他の企業から事前審査申請がだされているものや、すでに買収済、計画中のものを含めると約百五十号におよんでいます。

町および町議会、地元関係者をまじえて地域住民にあたる影響を考慮し、地質、気象の変化、治山、治水、防災、植生など、根本的な基礎調査を行ない、対策をたてるための資料としてコンサルタントによる調査を進めることになりましたが、県当局においても骨材資源確保、ならびに公害防止のうえからも強い行政指導をお願いします。

自然保護を第一に

山砂利問題を考慮

松野地区の山間部一帯は山砂利の宝庫といわれ、砂利層地帯は八百号におよんでいます。すでに河川砂利の禁止が見込まれている現在、企業は必然的に山砂利採取に移行するものと思われる

山砂利採取は、資源開発とあわせて跡地利用による奥地開発の促進にはなりますが、自然環境の破壊による河川のはんらん、交通公害など災害の発生も当然予想しなければなりません。

岳中腹に青少年野外センターの建設が決定されていますが、建設費に対する関係市町の財政負担が極めて多額ですので、県費助成についてお願いしたい。

農業関係は、みかん暴落に伴う生産抑制策、消費拡大対策や価格定価基金制度を拡大されたい。オレンジ果汁の輸入枠拡大阻止。基盤整備事業や近代化促進に関する助成率の引き上げ。

このほかに、都市計画街路岩瀨小池下線から国一富士由比バイパスに接続できるよう、蒲原町地区の道路について配慮されたい。

旭町地区から蒲原境の急傾斜地災害防止事業の促進。塩水化の進みつつある地下水の確保策。老朽化した富士川橋の架替。富士川右岸堤防道路の整備。庵原三町の発展と山梨県とのパイプ役として、東名富士川サービスエリア乗り入れ道の整備とインターチェンジ化について。

共立蒲原病院など赤字で悩む公立病院に財政援助を。住民の生活と健康を守るため、東電富士火力発電所建設問題は、周辺市町の意見を尊重することなどの要望をだしました。

青少年センターの建設に県費の補助を

教育関係では、静岡庵地区広域市町村事業として、由比町の浜石

ゴミ収集日の変更

燃えるゴミの収集日は、八月一日から次の日程のよう変更して収集していますので、当分の間ご協力ください。

収集日	巡回地区
月曜日	相生町・上町・舟山町・坂下
火曜日	旭町・本通一、三四・幸町・日の出町
水曜日	堺町・川坂・新町東町一、二
木曜日	新町四十九・宮町小池・大楽窪
金曜日	木島・小山・室野松野地区

心配ごとには気がるに

総合相談所を

ご利用ください

・9月20日（木）9時半～3時

・老人福祉センター

一中新校舎完成

二学期から使用

総工費一億一千八百五十万円をかけた、第一中学校校舎改築工事がこのほど完成、その落成式が八月九日に、第一中学校で行なわれました。

おりからの骨材不足で工事が延々になっていましたが、同校の生徒は二学期から新校舎で勉強できることになりました。

改築された校舎は、鉄筋コンクリート四階建て、延べ面積二千四百四十九平方メートルで、従来の三階建て管理棟に接続されています。内部には、普通教室十三、音楽教室、美術教室、家庭科被服室、図書室、職員室、保健室、用務員室などが設けられています。

旧校舎は、昭和二十三年故谷津倉町長当時に、文部省モデルスクール第一号の指定を受けて建築し、中学校教育に大きな貢献を果たしてきましたが、老朽化が激しく、取りこまれたA・B棟は、すでに危険校舎に認定されていました。C棟(特別教室)は、将来建て直して、残りの特別教室を建設します。



式典には、佐藤清水市長、町長議員、学校関係者など五百五十人が出席。中川町長のあいさつや来賓から祝辞が述べられたあと、生徒会代表から「新校舎でも今まで以上に勉学に励みます」とお礼の言葉が述べられました。同工事の請負者若月栄組と、設

計者神村建築造園設計事務所に感謝状が贈呈されました。

また席上、町表彰条例に基づき次の人たちが表彰されました。

- ▽自治功労 小永井茂作(川坂)
- 市川政男(南町) 芦川守正(木島)
- 池上憲(本通三) 若月吉太郎(本通三) 宇佐美賢治(大北町)
- 望月義信(相生町) 池田留

町会議員の

渡辺清右エ門氏死去

町議会議員渡辺清右エ門氏(明治四十四年十一月二十二日生、六十一歳、農業、新町四十九)は、八月十六日午後三時半ごろ、南松野八幡町の県道富士川富沢線で交通事故にあい、蒲原病院に入院加療中のところ、午後九時に薬石の効なく逝去されました。

町議会は、八月十七日全員協議会を開き、故人の葬儀委員長に議長をもつて遇することを可決。葬儀は、八月十九日に等覚寺で挙行されました。

同氏は、昭和四十六年四月三十日に町議會議員に当選。議員として当面する諸問題の審議に全精力を注ぎ、その思考力は高く評価されていきました。また、地区民の信頼も厚く、その死が惜しまれてい

吉(八幡町) 上野君江(南町)

▽教育文化功労

望月八代(舟山町)

▽産業経済功労

浦田富雄(宮町)

▽多額寄付者

浦田金吾(東京在住)

▽善行者

芦沢潤治(東町)

ます。遺族は、妻ふみさん、長男光章さんの二人です。

次に故人の略歴を記して、哀悼の意を表します。

故人略歴

昭和二年3月

富士川尋常高等小学校卒業

昭和24年8月〜29年7月

農地委員二期

昭和46年4月〜現在

富士川町議會議員

その他

建設常任委員、小池川改修特別委員、公害対策特別委員、工業用水特別委員、山砂利対策特別委員、県道富士川富沢線対策特別委員、庁舎建設特別委員、衛生処理組合議會議員

心の健康の

相談は保健所へ

県は、次のようなことで困っている人を対象に「精神衛生相談」を行なっています。

心の健康の問題で悩んでいる人は、毎月第二、四水曜日の午後一時から三時までに清水保健所へご相談ください。

▽子どもの場合 知恵が遅れている、よくうそをつく、ひきつけがある、極端に親に反抗するみんなの仲間に入らない、言葉が遅れている、盗みぐせがあるおびえる、口をきかない。

▽成人の場合 騒々しくなった眠れない、酒を飲みすぎる、つまらぬことを気にする、ぼんやり考えこんでいる、粗暴になった、いらいらしおこりやすい、薬を乱用する(中毒)、職場、家庭での人ずきあいがうまくできな、ものごとにあき易く長続きしない。

ご利用ください!

共立蒲原総合病院では、八月一日から胃カメラ、食道ファイバー、十二指腸ファイバー、レントゲン透視などによる精密検査を毎日おこなっています。検査ご希望のかたは、その旨受付に申し込んでください。

四百年前の台山山城

北松野ゴルフ場予定地内で発見

北松野地区の山陵地帯に建設を予定されているゴルフ場用地には旧甲州街道や天神道などの古道が含まれているため、関根白芹の句碑をはじめ、多くの遺標などの有形文化財や中世の山城跡、送り神、大平遺跡、町指定のはたご池など史跡、埋蔵文化財、天然記念物が多数あります。

これらの貴重な文化財については、町教育委員会が建設者の川商不動産㈱と協議して、その保存についての対策を検討しています。その最初の事業として、台山山城跡の確認調査を実施いたしました。

山城跡は台山山陵の標高二百五十メートル付近に主体部があり、東西に通ずる身延街道と南北に走る天神道に対して築城された東西約四百十メートル、南北約二百三十メートルの山城で、城の東側に南北約四十メートル、六段のコの字形の石塁を築き、左右に堀切、空濠をもって区切った出曲輪（でぐるわ）をはじめ、約七千平方メートルにわたる一の曲輪を中心に二、三、四の曲輪及び西の曲輪を配し

ています。

各曲輪は石塁をもって区切り、その外側は自然の地形を利用して堀切、空濠を築いています。

この山城跡周辺は、明治以来二回にわたり開墾、植林が繰り返えられて、現在は杉、檜林となつていますが、築城当時の原形はよく保存されていて、なかでも平城の大手門にあたる大木戸口、四の曲輪から一の曲輪に通ずる東枳形口、南木戸口、南帯曲輪などは最もよく保存され、山城跡としては貴重なものです。

しかし、この山城についての古文書などの記録はなく、出曲輪付近に、首実驗場、十萬遍の地名と十萬遍にある供養塔（寛文二年（一六六二）に北松野村名主佐五百千代、田中源三郎をはじめとする総百姓によって寄進されたもの）及び付近住民による内房口合戦の伝承などがあるのみで今後の調査にまたれますが、この地は駿河と甲斐の接点に位置し、富士川沿いの甲州街道が最も古くから通じ

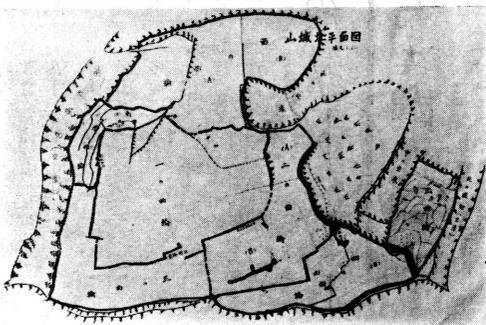
ていた地点で軍略的には重要な拠点と考えられます。

供養塔にある当城主荻氏とは、初代荻次郎左衛門尉氏督から六代目の荻圖書之助清督と定されま推れをくみ、松野に土着した荻氏督は足利義満に仕え、その子信督、三代一督、四代浄督は代々足利幕下に組して、とくに浄督は応仁の乱に参加し、功によって対馬守に任ぜられたといわれます。

また五代の慶徳は、大永元年（一五二一）今川氏の武将福島兵庫頭正成とともに武田信虎の軍と甲斐島上条（甲府市内）に戦い討死していますが、この代から地方豪族として名をあげ、松野、内房、富士方面までその支配下においたらしく、六代清督の時代は荻氏の前盛期でありました。

永祿十一年（一五六八）十二月、武田信玄は第一回目の駿河侵攻を行ないました。今川方に加担した荻清督は当然この山城に籠って武田軍を迎え撃つたと推定されますが、合戦の様子は不明で「武田三代記」「甲陽軍鑑」に「十二日、内房、六

台山山城跡平面図



原に陣した信玄は、山県三郎兵衛尉昌景を内房通へ差向け、昌景は内房山に押上り、人足三千人を以って薩埵山、八幡平へ兵馬が通ずる道を作った」また「松平記」などには「十二日、駿州由比のうしろ、松野という所へ陣す」とあり付近に残る伝承などから推察してこのときに合戦が行なわれて、清督は討死したと思われま

す。ともあれ今回の調査によって四百年開墾された台山山城は再び私達の眼前にその姿をあらわしました。この機会に、この貴重な遺跡を慎重に検討研究して、郷土の歴史開明の一助にしたいと思いま

台風時の

電気を取扱い

電気は目で見る事ができません、台風時には特に、次のことに注意しましょう。

▽電気機器のスイッチは、必ず切っておきましょう。

台風で停電したとき、電気機器のスイッチを入れたままにしておくと、復旧送電されたとき自動的に働いて、思わぬケガや火災の原因となるのでスイッチは必ず切りましょう。

特にアイロン、トースター、ドライヤー、電気ノコギリなどはプラグをコンセントから外しておきましょう。

▽切れた電線にはさわらない、切れた電線や垂れさがっている電線には絶体にさわらないよう、とくに子どもに教えておいてください。電線がアンテナや看板などに直接触れている場合も同じです。また、田んぼや養殖池などの見回りで水の中へ入るときは、その中に電線が切れ落ちていないか、水面近くまで垂れさがっていないか、よく確かめてからにしてください。

このような危険な個所を見つけたら、中部電力富士川営業所へ連絡してください。

交通非常事態

警報発令

交通事故死すでに三倍

間で六人のところ、今年はすでに十人を数え、四人も増加しています。このうち当町では昨年二人のところ、すでに六人も死亡。したがって、郡下で増加している死者は富士川町内で発生しているといえます。

県警が年間の重点目標としている「子どもと老人」を守るのプログラムもむなしく、交通事故が四件発生しています。

庵原郡下では、すでに昨年を上回る交通死亡事故を記録しています。これの絶滅を期して三町交通安全対策委員会、蒲原警察署、安全協会蒲原支部は、八月二十五日に交通非常事態警報を発令しました。

郡下の交通事故死は、昨年一年

このため、運転者に「交通ルールを守り安全運転の励行」。歩行者、とくに子どもと老人には「道路を横断するときは、左右の安全を確かめてから渡る」など、各町毎に十分気をつけるよう町民に呼びかけています。

9月15日に敬老会

第四十二回敬老会は、九月十五日、第一小学校体育館で開かれます。

昨年まで富士市の大富士ヘルスセンターで行なわれていた敬老会は、今年から第一小学校体育館に会場を変更。対象者は七十才以上七百七十一人と、昨年より約二倍になりました。

当日は、東京から歌手三人、司会者二人と、日本軽金属プラスバンドによる演奏の催しが予定されています。

10月7日に町民大会

第一七回町民体育大会は、十月七日の日曜日に、第一中学校グラウンドで午前八時から開かれます。(雨天の場合は十月十日に延期されます)

この大会は「全町民の参加のもと、一年に一回スポーツを通じて秋の一日を楽しく過ごし、明日への健康生活の糧とする。また、町民の社会体育面を推進する」という目的で毎年行なわれています。

体育協会(尾崎初男会長)は、各区の区長、体育部長、関係者に実施要領を説明して、協力をお願いしました。組合せ抽せん会は、九月二十五日に行ないます。

東部短歌会で

植松秀子さん優勝

県歌人協会主催の東部短歌会は、八月十九日、駿東郡小山町で開催されました。

本部からは選者として五人の講師が出席。流派を超えて参加した百八人の作品を厳密に審査しました。

富士川短歌会からは坂下の植松秀子さんが出席参加、その作品が各選者から最優秀作に選ばれ、選者賞並びに小山町長賞を獲得しました。

富士川短歌会は、昨年富士市で行なわれた短歌会で優勝した長橋安子さんにつづき、二年連続優勝したことになります。

当日の植松さんの作品は次の通りです。

(再就職を現場と決めしわが夫に白き下着の数調ふる)

▼富士川短歌会▲

八月詠草

天野 寛選

浦田次子

照り強き日に身をかがめ梅を干す
紅に染む手は紫蘇の香匂う

若月幸江

病みしより記憶薄れし母なれば見
舞いし人を指さし告げぬ

山田たか子

ひぐらしのしきり鳴く庭の敷石に
散りこぼれたる百日紅の花

荻野敏音

吾に代りハンドル握る娘の横に姑
と坐りて今日も鶴良に出づ

長谷川ゆり子

子供らに銭くれて取らすへびいち
ごの餌葉を作る祖母に夏来ぬ

塩川恒子

今宵咲かむ月下美人を見せしむと
電話で吾をいざないくれぬ

植松法子

盆近き朝裏庭に青竹の節をくりぬ
く音のひびかう

若月一郎

褐色に色づきそめし茶の実あり山
の畑に秋近くして

入月弘子

亡き父の使い古せし湯呑茶碗墓に
残れり三年過ぎつつ

古木淑子

昼に寝て夜は机に向う子に水羊美
と茶を運びゆく



社明運動募金

三万七千円集まる



「青少年の非行防止」を目的に社会を明るくする運動が実施されました。

町では、この事業の一環として更生保護婦人会、保護司会が中心になり七月二十六日、富士川駅前募金運動を行いました。

当日は、二十人の関係者が集まり、肩に「社会を明るくする運動」のタスキを掛け、手に社明募金箱を持ち、通動者や通行人に協力を呼びかけました。

駅前での募金運動

同運動で集まった三万七千五百九十四円の募金は、「愛の図書」

献血協力者

志村さんを表彰

「献血十回協力者」として、小池の志村敏生さん（東芝富士工場勤務）に、日本赤十字社から銀色特別社員章が贈られることになりこの伝達式が、八月二十七日行なわれました。

「全国的に血液が不足している折志村さんの協力に感謝します」と中川町長は話していました。

九十鉄工が三連勝

商工会ソフトボール大会

町商工会（斎藤久会長）主催の第九回親善ソフトボール大会は

七月二十九日、八月十二日の両日五つのグラウンドで行ないました。その結果、A組は九十鉄工所Aチームが三連勝。B組では商工青年が優勝しました。

町内の商工業者の親睦を図る目的で毎年開いている、このソフトボール大会に三十二チームが参加

対戦表によって七月二十九日に行なわれましたが、あにくの雨天のため午前中で試合を中断。残りの試合を八月十二日に挙行。熱戦を展開しました。結果は次のとおりです。

A組優勝 九十鉄工所A

二位 本州製紙㈱A

B組優勝 商工青年

二位 米喜バルブ

戸籍の窓

48・7・20〜8・19（敬称略）

おめでた

区名	出生児	保護者続柄
室野	望月哲也	廣己 長男
相生町	谷津倉孝明	幸光 二男
川坂	望月奈津美	俊夫 三女
四十九	清水万理	威 長女
〃	堀池英人	潔 長男
宮町	花田 純	洋一 長女
小池	板橋紀和	信男 長男

小池	畠山尚哉	豊 長男
〃	落合由佳	秀年 長女
〃	加藤 洋	晴久 長男
幸町	庄司晓美	寿男 長女
東町一	三枝敬暁	悟 長男
〃	伊藤 健	静 〃
〃	伊藤亮子	〃 三女
東町二	三浦茂美	悦雄 長女
〃	浜崎湖穂	武人 二女
南町	望月直哉	真治 二男
富士見町	佐野真紀子	光弘 長男
〃	望月哲也	秀樹 二男
八幡町	桐山京子	三男 長女
〃	佐野雅己	等 〃

よろこび

八幡町	木伏洋子	史郎 三女
〃	稲葉 純	教洋 長女
清水町	宇佐美義人	康之 二男
〃	谷川浩介	英男 〃
大北町	望月和代	義昭 長女
〃	佐野恭正	和男 二男

かなしみ

区名	氏名	年齢
小山	植松富秋	二二

10月1日に 住宅調査

総理府統計局は、五年に一度十月一日現在で住宅統計調査を実施します。

当町では、富士見町、南町、舟山町、坂下、旭町、新町四十九地区が調査の対象になります。

住宅統計調査は、住宅の建てかた、住んでいる世帯の種類、住宅に困っている世帯がどのくらいあるか、どの地区に多いか、などを調査し、過去のデータと比較して住宅の規模、構造、設備、宅地、あるいは世帯の居住状態がどのように変わってきているかなどを明らかにすることを目的としています。

この調査の結果は、地方公共団体の公営住宅などの建設計画の立案。住宅金融公庫の融資計画の立案など住宅関係の種々の計画や施策の基礎資料となります。

今年の調査時期も十月一日と迫っています。

次の調査員が、調査にお伺いした折にはよろしくご協力ください

調査員（敬称略）	
舟山町の一部	太田国弘
坂下	池田一郎
旭町	平岩康夫
新町四十九	谷津倉章夫
南町、市場地区	佐野静雄
平清水、漆野	村野幸三